

「緑の協力員」のしおり

人々の心の内にある「緑への思い」を「緑の募金」活動を通じて結実させるため、森林に関心をお持ちの方、地域社会に根ざした地道なボランティア活動を続けておられる方に、「緑の協力員」としての参加を呼びかけます。

町内会やPTA、職場サークルといったコミュニティーに一人づつ、さらにガールスカウト・ボーイスカウトや森林インストラクター、学生の皆さんに「緑の協力員」をお願いし、「家庭募金」や「学校募金」、「職場募金」といった草の根活動に広く賛同をいただきながら、「ボランティアによる緑の募金」の幅を広げていきます。

「緑の協力員」の役割

「緑の協力員」には、

- 「募金ボランティア」がくらしに根づき、その輪が広がっていく、その「先導役」になっていただく、
- 世の中に満ちみちている「緑のニーズ」を具体的な森林体験につなげていく、その「橋わたし役」になっていただく、ことを期待します。

「緑の協力員」の基本動作

「募金ボランティア」が広くくらしに根づいていくため、あなたにとっていただく基本動作は、つぎのようなものです。

◆まずは、募金箱の管理です。

募金期間が始まると、人目のつく場所に、緑化推進委員会から提供されてきた「ポスター」を張り出し、「募金箱」を設置して、活動が開始したことをアピールします。

これに呼応して、募集シンボルの「緑の羽根」や「グリーン・リーフ」を「パンフレット」とともに回覧します。

この際には、寄付を強要されているような気持ちを抱かせないように、さわやかに心がけましょう。

◆いよいよ募金活動が本格化してきます。

あなたが所属されている「会社」や「学校」、「町内会」などでイベントやお祭りの予定があれば、「緑の募金コーナー」を設けていただくなど、積極的に対応してください。

緑化推進委員会から「街頭募金」への協力呼び掛けがあった場合には、「人員の配置」や「寄附金の管理」などに労をとっていただくこととなります。あなたの街頭での呼び掛けが募金イメージを、よりソフトに、より鮮明なものにすることでしょう。

募金期間が終了したら、「募金箱を回収」し、「寄附金を集計」し、緑化推進委員会の「口座に振り込んで」いただくこととなります。この際、収支関係を明らかにした上で、募金活動に要した経費は差し引いていただいで結構です。

「無事におわった」との安堵とともに、「ああすればよかった」、「こうすれば・・・」と、反省点、問題点を頭をかがめぐるひとときです。これが次回の工夫につながります。

◆「緑の協力員」の役割は、募金期間が閉じても続きます。

人々の心の内に満ちみちている「緑のニーズ」を「グリーンプラン」の上に投影させることを糸口にして「募金ボランティア」の輪を広げていく、次の動作にかかってください。

そのプロセスは、プランを取りまとめ、緑化推進委員会に申請し、緑の募金事業としての配分を受けることから始まります。

申請は「グリーンシート」によって下さい。あなたの「緑の協力員」としての実績が評価され、配分に反映されます。

「グリーンプラン」が実行され、それが具体的な形で実を結んでいくことによって、緑への実感が得られ、募金ボランティアへの共感が呼びおこされることになるでしょう。

そうして、「緑の協力員」への賛同の輪がさらに広がっていきます。

「緑の協力員」の基本動作は以上ですが、それぞれの立場や所属のグループの性格に応じて、各々にふさわしい応用動作が考えられます。

「緑の協力員」の応用動作

「例えば・・・」という意味合いで、若干の応用動作を羅列します。「緑の協力員」のイメージをより明らかにして下さい。

◆あなたが、「町内会」の世話役の立場におありの方なら

町内会で登録いただいた「緑の協力員」には、「家庭募金」の取りまとめに携わっていただきます。

「家庭募金」では、ご家庭を単位に呼びかけてください。「一日一円、一家庭・一年365円運動」のような、暮らしのにおいの漂う無理のない発想に心がけましょう。

赤い羽根と同じく町内会から願う事になります。ご賛同いただけるよう、「みどりづくりとセットになった募金システム」に工夫をこらすことが肝要です。

このため、町内会、学校、職場、サークルといったコミュニティですすめる「自発的なみどりの取組み」を、緑の募金事業に位置づけるための意思表示として「グリーンプラン」を立ててください。

これは、住宅まわりの樹々をメンテナンスする「グリーン・グリーン作戦」であったり、森林に向かい共通のフィールドとして役立てていく「街の森」づくりであったり、漁村の皆様によってつくられる「魚の森」であったり、といった、バラエティーに富んだみどりづくりに取り組んでいただくための指針になります。みどりに係り、森林とつき合うためのプランなのです。

この取組みを通じて、「森林に気軽にアプローチできる」ことを市町村の緑化推進委員会と連携しながら近隣の町内会にも広くご紹介いただき、「緑の協力員」への参加を呼びかける糸口にしましょう。

こうした、地についた呼びかけが功を奏し、「緑の募金」が幅広い支持を得ていくことになるのです。

◆あなたが、「PTA」とか、「子供会」の役員なら

「PTA」や「子供会」、「緑の少年団育成会」などで登録をいただいた「緑の協力員」には、「学校募金」の取りまとめをお願いします。

「学校募金」は、次代を担う子供たちの心に「みどりを守り、育てる気持ち」が育まれ、「緑の募金」が将来にわたって国民運動として受け入れられていくために不可欠な取組みです。

たとえば、「組み立て式の簡易木製募金箱」によって募金雰囲気醸成に努めることなどを取り入れ、取組みを展開して下さい。

校内や周辺街区の「グリーン・グリーン作戦」や森林教育のフィールドとしての「学校林」づくりを手掛けていただくなど、「グリーンプラン」を幅広く役立てて下さい。

◆あなたが、「ボーイスカウト」や「ガールスカウト」のリーダーなら

ボーイスカウトやガールスカウトのリーダーの立場で「緑の協力員」に登録いただいた方には、「街頭募金」のご支援をお願いします。

「街頭募金」は、募金効果にとどまらず、そのPR効果が「家庭募金」や「学校募金」の取組みにも反映されてくるものです。

県庁所在地や中心都市だけにとらわれることなく、中小都市のアーケード街などでも幅広く呼び掛けましょう。あらゆる機会をとらえた工夫をこらした取組みが功を奏します。

「街頭募金」では、執拗に「連呼」を繰り返すやり方に対して違和感を持たれる場合もあります。活動にはさわやかさが求められます。緑の帽子やTシャツで視覚に訴えることも大切です。

緑化推進委員会と連携して、募金箱、募金シンボル（これまでの「緑の羽根」に加えて、「グリーン・リーフ」もデビューします。）の活用や人員配置に工夫をこらして下さい。

「緑の募金」の配分を生かして、「グリーンプラン」を子供たちの森林・みどり活動に上手に組み入れていくことも、「緑の協力員」の大きな役割になるでしょう。

◆あなたが、団体の役員なら

業界団体を代表して「緑の協力員」に登録いただいた方には、系列企業の社長さんに「緑の募金」への協力を呼びかけ、「募金ボランティア」の輪をさらに広げていただくことをお願いします。

ウイングの拡大のためには、組織の力が大きくモノをいいます。

役員会や研修会ははじめ、あらゆる機会をとらえて、「緑の募金」の趣

旨を周知していただき、きめ細かく「緑の協力員」としての登録を呼びかけてください。

◆あなたが、会社で責任ある立場におありにあるなら

経営者や会社サークルの幹事さんの立場で「緑の協力員」に登録いただいた方には、あなたの職場で「緑の募金」を取りまとめていることができます。

本社の「受付」や「社員食堂」にとどまらず、「部」や「課」、「支店」や「事業所」を単位にポスターを貼り出し、募金箱を設置するなど、きめ細かく募金の輪を広げてください。

「グリーンプラン」でああなたの「会社の創業を記念する森」をつくり、社員レクリエーションの一環で森に出かけてみては如何でしょうか。

サークル仲間と声をかけあって、ボランティアで体験作業に汗を流しに出かけるのもおしやれです。「緑の協力員」としてのあなたのステータスがぐっと上がります。

◆あなたが、「森林インストラクター」、「樹木医」、「自然保護パトローラー」、「森林行政OB」のような、緑のプロなら

森林・みどりのプロの立場で「緑の協力員」に登録していただいた方には、あなたの経験と知識・技術を緑の募金活動に存分に反映させていただきます。

あなたが中心になって取りまとめられた「グリーンプラン」は、一般市民の方々のグループが取り組むプランのお手本となり、実績に裏打ちされたあなたのリーダーシップが「緑の協力員」のイメージを揺るぎないものにし、「募金ボランティア」を確固たるものにしてくれます。

◆あなたが、学生なら

「大学のサークル」や「カレッジスクールの同好会」で「緑の協力員」に登録いただいたあなたには、新鮮な発想で募金活動を演出していただくことを期待しています。

「シンボルマーク」や「イメージソング」をファッショナブルに使いこなし、「緑の募金」をおしゃれなものに印象づけてください。

女性のグループなら「街頭募金」での呼びかけを多くにお願いします。街頭を一陣のそよ風が吹き抜け、「緑の募金」のアピールにさわやかさがもたらされることでしょう。

「グリーンプラン」づくりでもあなたのセンスに期待します。

シティライフに飽き足らず、森に出かけて下刈や間伐に打ち興じることが「スポーツ感覚」でとらえようとしています。

かけがえのない原生林を訪ね歩く「森林文化派」も現れてきています。大森林を取り込んだ壮大な学園祭とか、青春ならではの、「大胆な企画」を盛り込んで下さい。

◆あなたが、「県人会」や「同窓会」の幹事さんなら

都市に住んでいる人の多くは、田園や山村に生まれ育ち、かけがえのない「自然体験」を持っています。

「ふるさと」への思いには、森林と一体になったノスタルジアがあります。県人会や同窓会は、そのことを確認し合う場でもあります。

生まれ育った「おらが国の山」のために、「ふるさと募金」をお願いしてみてください。「緑の募金」の目指す「マチとムラの交流」がより現実感を伴って盛り上がっていくことでしょう。

◆あなたが、地域に根ざしたボランティアグループのメンバーなら

余暇活動の一環として、コミュニティー会館や公園などで地道に地域ボランティアに取り組みされている「緑の協力員」には、それぞれの活動の中にさりげなく募金活動を反映させてみてください。

日常のきめ細かな募金活動の積み重ねが「緑の募金」の原点です。

「グリーンプラン」には、地域に潜在する緑のニーズを丹念に盛り込んでいって下さい。

あなたの街に「シンボルになるような巨木や古木」があれば、「樹木医」に健康診断をお願いしてみるプランなどいかがでしょう。

現在取り組んでおられる「グリーン・グリーン作戦」も、「緑の募金」の配分の対象になります。

フリーハンドで「あなたの街にみどりを溢れさせるための構想」を描いてみて下さい。

以上が「緑の協力員」の応用動作です。これは、一事例にすぎませ

ん。それぞれの立場や地域性などによって、まだまだ工夫の余地もあります。

あなたなりの動作を付け加えて更に支援の輪を広げていって下さい。

基本的な考え方

結びとして、「緑の募金」への協力を呼びかける際の基本的な考え方をかけます。ご理解を十分に得た上でご協力をお願いして下さい。

◆誰のためののか

「みどり」は私たちのくらしに限りない恵みをもたらしてくれます。

「水」は、森によって育まれます。歴史上、水ききは数多くのドラマを生んでいます。これほど便利になった今日においてさえ、水不足問題が私達のくらしに及ぼす影響は計り知れません。

森は、「海」とも結びついています。

森が荒れて土砂が流れ込み、魚の繁殖の為の環境が損なわれるのを防ごうと、漁民の皆さんがこぞって川の上流に樹を植え始めています。

森は、また「食」とも深い関わりがあります。

地球の温暖化が極地の氷を溶かし、これが海面を押し上げて耕地を狭め微妙な気象のバランスがそこなわれて、穀物の生産に破綻を来たす。遠いよその国のできごとのように思われがちな「熱帯林の減少」や「砂漠化」も、実は私たちの暮らしの根幹をゆるがす差し迫った問題でもあるのです。

森の恩恵は今を生きる私達にもたらされるものであるとともに、それはまた、21世紀を生きる子供達のためでもあります。

「みどりをづくり、これを育てる」ためには、気の遠くなるほどの年月が必要です。私たちが投じるこの一石は未来へつながり、大きな波紋となって広がっていくのです。

◆なぜ、今、自分達がやらなければならないのか

私たちは、先人が味わったことのない繁栄の中にあります。この豊かさの中から、社会参加の新しい形が芽ばえようとしています。

阪神・淡路大震災の復興を支援するため、数多くのボランティアが活躍したことは記憶に新しいところです。これらを契機に、ボランティアは、社会の一つの大きなエネルギーとして認識されつつあります。

21世紀には、社会のありとあらゆる分野で、ボランティアとの連携が求められてくるでしょう。みどりを守り、育てる取組みにも、自分流のやり方でこれを受け入れようとの機運が高まりを見せています。

「緑の募金法」には、民間グループなどが自主的に行なう森づくりを支援する考え方が立法の趣旨として貫かれています。

地球的規模での森林の衰退が深刻化する中、緑を通じた国際貢献は、今や国民的合意でもあります。国民の皆様から自発的な協力でこの輪を広げ、森・緑を守り育てる取組みへと結実させていく事をねらいに、「緑の羽根」は法律に基づき「緑の募金」として生まれ変わりました。私達一人ひとりの行動が、この地球を救います。

◆それは、どのように使われるのか

「緑の募金」の配分は、国民の皆様から自発的に寄せられた大切な善意ですから、国民の自主的な活動のために役立てていくことが基本になります。

成熟した社会において醸成されつつあるボランティアによる森づくりへの参画意識を、この「緑の募金」の取組みを通じて育てていくため、「緑の募金」に寄せられた寄附金は、「みどりを守り・育てる」ための自主的な取組みを支援するために役立てられます。

森が、「水」や「きれいな空気」を送出し続ける役割を果たしているように、その足腰を強くするための「植林」、「育林」、「間伐」などのために使われます。

くらしにみどりを溢れさせ、快適でやすらぎのある都市空間を造るために使われます。

NGOが行なう、「熱帯林の再生」や「砂漠緑化」などの国際ボランティアを支援するために使われます。

「民間の」、「民間による」、「民間のための」緑の募金は、国民運動としての展開を目指しています。